

式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名		夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
				全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科		夜・通信		4	4	14	13	
	健康福祉学科		夜・通信			4	14	13	
教育文化学部	教育学科	初等教育コース	夜・通信	6	—	8	14	13	
		幼児教育コース	夜・通信			8	14	13	
		養護教諭コース	夜・通信			8	14	13	
		音楽コース	夜・通信			8	14	13	
	芸術学科		夜・通信			8	14	13	
	心理カウンセリング学科		夜・通信			8	14	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページに掲載

https://www.hokusho-u.ac.jp/images/100/files/infopublic_jitumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ

<https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/yakuin.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	北海道町村会 常務理事	令和元年5月 28日～令和5 年5月27日	行政・教育機関等の 連携
非常勤	社会福祉法人 湊仁会 理事長	令和元年5月 28日～令和5 年5月27日	医療・福祉関係、企業 との連携
非常勤	株式会社 FM 北海道 常務取締役（前職）	令和元年5月 28日～令和5 年5月27日	メディア関係機関、 企業との連携
非常勤	川本謙一級建築士事務所 代表	令和3年6月 1日～令和7 年5月31日	スポーツ関係団体機 関、企業との連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人 北翔大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全ての科目について、詳細なシラバス(講義要綱)を作成している。作成に当たっては、学習支援委員会において、シラバス作成における記載事項を定め、シラバス記載要領とともに示し、記載方法の統一を図っている。授業担当者は、示された記載要領に沿ってシラバスを作成している。 シラバスの記載事項は、「科目名」「授業形態」「単位数」「教員名」「授業の目的(ねらいと到達目標)」「授業の計画(テーマ、計画内容、授業時間外の学修内容、具体的な学習形態)」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法(配分、補足)」「課題に関するフィードバックの方法」「実務経験と授業の関連(経験内容、科目との関連)」「質問への対応」「資格」「その他(履修に際しての留意事項等)」としている。 シラバスの作成過程は、例年前年度の12月頃までに学習支援委員会でシラバス作成の方針・留意事項等をまとめ、1月にwebシステムでの入力を授業担当者に依頼する。その後印刷データとして集約し、印刷業者に入稿、校正等を行っている。なお、初稿の確認の際に、学習支援委員等がシラバスの内容を確認する工程を設けている。校正等を経て、3月末に冊子として納品され、新入学生には入学式当日、在学生には新年度オリエンテーションの際に配布している。また、完成した冊子をPDF化し新年度当初にホームページに掲載し公表している。	
授業計画書の公表方法	シラバスは冊子として印刷し、学生及び学内関係者等に配布するほか、本学ホームページ及び学生ポータルサイトで公表している。 ・本学ホームページ「講義要綱(シラバス)」 https://www.hokusho.ac.jp/undergraduate/syllabus/index.html

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定については、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。

評価方法については、講義等における多様な評価方法をとることを推進しており、シラバスに、その評価方法を記載している。評価方法は、筆記試験、実技試験、課題評価、作品評価、受講態度等共通項目をたて、評価の配分を示し、補足欄にその詳細を記載している。なお、評価については、S(90点以上)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)の5段階によって評価し、SからCまでを合格とし単位が与えられる。

なお、段階を設けた成績評価の意味や数値、計算等については学生便覧に記載し、学生ポータル等も活用し学生には周知している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、GPA(Grade Point Average)制度を導入しており、S=4.0 A=3.0 B=2.0 C=1.0 D=0.0 としている。GPAの計算は、以下のとおりである。

学期 GPA = $\frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$

年間 GPA = $\frac{(\text{その学年に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{その学年に評価を受けた科目の単位数の合計}}$

通算 GPA = $\frac{((\text{各学期に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{その科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$

GPAは、学生の履修指導、奨学金の選定、学業表彰対象者の選定等に活用されており、教員は、学生のGPAデータをもとに授業改善に役立てている。また、直前の学期GPAが1.5未満の学生に対しては、ガイダンスティーチャー又はゼミ担任が履修指導を行っている。特に、2期連続で直前の学期GPAが1.5未満の学生に対してはガイダンスティーチャー又はゼミ担任と教育支援総合センターが連携して履修指導を強化している。

CAP制度については、学生が履修する講義・演習・実習内容について予習・復習を含めて主体的に学ぶ機会を保障するために、各学年次で履修登録できる単位数を48単位に制限している。なお、資格関連科目においては一部CAP除外科目を設定している。また、GPAの評価によって、以下のとおり上限単位数を超えて履修できることにしている。

- ・直前学年次の年間GPAが3.5以上の場合は、8単位加算
- ・直前学年次の年間GPAが3.0以上3.5未満の場合は、4単位加算
- ・直前学年次の年間GPAが3.0未満の場合は、単位加算0

これらGPA制度等については、学生便覧に記載し学生に説明している。また、学生本人が自分の学生ポータルの成績照会画面でGPAを確認することができるなど学生への周知が図られている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	GPA 制度の説明と算出方法等については学生便覧に記載している。学生便覧は本学ホームページに掲載され、学内外を問わず誰でも閲覧することができる。 ・ 本学ホームページ「学生便覧」 https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定等は、各学部・学科におけるディプロマ・ポリシーを踏まえ、大学学則に示す基準に基づいて行われている。各学部・学科のディプロマ・ポリシーはそれぞれの学部・学科の教育目的を踏まえて策定され、大学案内、学生便覧、ホームページなどで公表しており、学生に対しては入学時オリエンテーションなどでも周知している。 大学学部の卒業要件単位数は 124 単位である。卒業認定については、学科会議・学部会議で単位の修得状況などについて厳正に審査を行い、教授会で審議のうえ決定している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ディプロマ・ポリシーについては、大学案内、学生便覧、本学ホームページ等で公表している。 ・ 大学案内 北翔大学アドミッションセンター ・ 学生便覧 本学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/ ・ ディプロマ・ポリシー 本学ホームページ 生涯スポーツ学部 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/ スポーツ教育学科 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/index.html 健康福祉学科 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/index.html 教育文化学部 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html 教育学科 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/index.html 芸術学科 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/index.html 心理カウンセリング学科 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/index.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2020R2.pdf
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2020R2.pdf
財産目録	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2020R2.pdf
事業報告書	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2020R2.pdf
監事による監査報告(書)	大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/financial_information_2020R2.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/corporation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/jihe.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生涯スポーツ学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf
（概要） スポーツや健康に関する理論や実践について探求し、主体的・活動的・健康的な生き方を実践・支援できる人材を育成し、生涯にわたってスポーツに親しむ事ができる健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築に貢献することを教育目標として、実践力のある人間性豊かな生涯スポーツのスペシャリストを育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/
（概要） 生涯スポーツ学部は、スポーツ教育学科と健康福祉学科の 2 学科からなります。本学部は生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツ・健康、福祉・介護分野の学びを通して、幅広い世代の支援者として、主体的・活動的・健康的な生き方を実践できる能力を身に付けた以下の学生に、「学士（スポーツ教育学）」「学士（健康福祉学）」「学士（介護福祉学）」の学位を授与します。 (1) 幅広い教養と豊かな人間性をもとに、実践的コミュニケーション力により、多様な人々との関係づくりと協働を可能とする総合的な力を備えている。 (2) スポーツや学校教育、健康・福祉等の分野や社会の中で生まれる事柄に取り組むための科学的な知見と客観的な判断力を備えている。 (3) 培った知識・技術を活用してスポーツや学校教育、健康・福祉の分野や地域社会の様々な活動に取り組むための実践者としての指導力・組織力を備えている。 (4) スポーツや学校教育、健康・福祉の分野における専門的職業人としての素養を身に付け、保健体育教諭、競技者、スポーツトレーナー、健康運動指導士、社会福祉士、介護福祉士などになるための基礎的な能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/
（概要） 生涯スポーツ学部の教育課程は、スポーツや健康・福祉の分野における専門的職業人の養成を目指し、基本的理論の修得と演習・実習等による実践力を育成するカリキュラムとなっています。さらに、学生の関心領域の広がりにより即して学科横断的な履修や他学部の関連領域への発展的履修も可能となっています。そのことにより、学生は、自己が描く専門職像に適した幅広い教養と専門性を備えることができます。 カリキュラムの基本的な構成は次の 4 群です。 (1) 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を養成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目） (2) 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目） (3) 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群（学部共通科目） (4) 各自の選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/

(概要) 本学部は、生涯スポーツ社会の実現を目指してスポーツ・健康、福祉・介護という視点から、人々の生き生きとした生活をサポートする人材の養成を通して地域社会の発展に貢献することを目的としています。そのためには、スポーツ・健康、福祉・介護の分野において実践的指導者となるような以下の資質を備えた人たちの求めます。 (1) 高等学校の教育課程を修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 (2) スポーツ・健康・福祉・介護分野に関心があり、この分野を通して地域社会へ貢献したいという情熱を持っている。 (3) 保健体育教諭、健康運動指導士、スポーツトレーナー、社会福祉士、介護福祉士などの専門的職業人を目指している。 (4) 知的好奇心が旺盛で何事にも主体的に行動できる。 (5) 課題等に対して積極的に取り組もうとする意欲がある。 (6) 他者との相互理解をはかり人間関係を円滑に保つことができる。

学部等名 生涯スポーツ学部スポーツ教育学科 教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf
(概要) スポーツ教育に関する高い専門知識と実践的技術を学び、生涯スポーツ社会の実現に向けて、競技スポーツ、学校教育、地域社会で活躍できる人間性豊かな人材の育成を目的とする。 卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/files/2019%E5%BC%BFsport.pdf (概要) 本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。 【知識・理解】 (1) 豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。 (2) 運動・スポーツ・健康・教育に関する専門知識を身に付けている。 (3) 保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナーなどをを目指す学生は、各養成課程で求められる知識を身に付けている。 【思考・判断】 (4) 自ら考え、設定した課題について、運動・スポーツ・健康・教育の学問領域の研究手法で学んだ知識を活用し、適切な解決策を考えることができる。 【関心・意欲・態度】 (5) 生涯スポーツ社会実現に向けての課題に関心を持ち、幅広い視野で解決策を考える意欲がある。 (6) 多様な価値観をもつ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と協働して活動することができる。 【技能・表現】 (7) スポーツを通じて培われたコミュニケーション能力と運動・スポーツ・健康・教育に関する専門的技能と指導力を身に付けている。 教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/files/2019%E5%BC%BFsport.pdf

(概要)

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

【教育内容】

生涯スポーツ社会で活躍できる豊かな人間性と専門性を兼ね備えた人材となるために、スポーツ・健康・教育に関する知識と実践力を段階的に身に付けることができるよう基礎的科目から専門・応用科目を体系的に学修する。

以下の4群に分けたカリキュラム構成とする。

- ① 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を育成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目）
- ② 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目）
- ③ 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群（学部共通科目）
- ④ 自ら選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）

- (1) 講義においては、基礎的・専門的な知識を学ぶ。演習においては自己の課題を発見し他者との討議を積極的に行い問題解決能力を高める。実技においては運動・スポーツ技術や指導方法を学ぶ。実習においては、地域社会における様々な体験活動を通し、実践的指導力やコミュニケーション能力を高める。
- (2) 社会人基礎力を修得するための基礎学力の向上、幅広い教養を身に付ける。
- (3) 1年次においては基礎学力の向上を目指しながら、スポーツ・健康に関する基礎的知識の修得を目指す。
- (4) 2年次から「スポーツ教育コース」、「スポーツトレーナーコース」、「競技スポーツコース」の3コースに分かれて専門的な教育を行い、各自の適性・進路に合った、より専門的な知識や技術を修得する。また、地域における実習・ボランティア活動に取り組むことにより、コミュニケーション能力や実践的指導力を高めることを目指す。
- (5) 3年次以降は、ゼミナール形式での「専門演習」、「卒業研究」を通して、専門性をより深く追究し、社会人基礎力の向上に努める。

【教育方法】

- (1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習や実技においてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。（一部の科目は除く）
- (2) 1年次では、少人数制担任制度を用いて担任による個人面談を実施し、学習意欲と基礎学力を向上させる。
- (3) 2年次では、1年次の学習内容の振り返りを定期的に行い、学修の習熟度を評価し、担任のサポートによる学習意欲や基礎学力のフォローアップを行い、専門演習選択のための評価基準とする。
- (4) 3・4年次においては、少人数制の専門演習を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
- (5) 3・4年次はゼミ担当者を通じて教員による個人面談を実施し、学士力、社会人基礎力を養う上での学びの振り返りを促す。

【教育評価】

- (1) 講義科目、演習・実習科目においては、「筆記試験」、「課題評価」、「作品評価」、「受講態度」等によって、実技科目においては、更に「実技試験」の項目を追加して、学修の習熟度を多角的に評価する。
- (2) 各学年において学期ごとに単位の取得状況を確認し、スポーツ・健康に関する専門的知識と高い実践力を身に付け、生涯スポーツ社会に貢献できる人間性豊かな人材としての準備状況の確認評価を行う。
- (3) 4年間の学修成果は単位の取得状況、専門演習、卒業研究や資格の取得状況等で総括的に評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内、学生募集要項）

<https://www.hokusho->

[u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/files/2019%E5%B9%B0%E6%96%B9%E6%96%B9%E6%96%B9.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/files/2019%E5%B9%B0%E6%96%B9%E6%96%B9%E6%96%B9.pdf)

（概要）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
- (3) 身近な社会問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (4) スポーツ活動を通して積極的に他者とのかかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。
- (5) スポーツの活動経験があり、入学後もスポーツ活動に積極的に関わる（する、みる、支える）意欲を有している。
- (6) スポーツ・健康に関することを学び、生涯スポーツ社会において、保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナー等を目指し、スポーツ活動や健康づくりを推進しようとする意欲がある。
- (7) スポーツ活動を行うための基礎的運動能力を有している。

学部等名 生涯スポーツ学部健康福祉学科

教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf

（概要）

健康・福祉・介護・スポーツに関する幅広い専門的知識の習得と地域貢献等に主体的に取り組む実践をとおして優れた企画力・実践力・連携力の養成をめざし、少子高齢社会における地域づくり、健康づくり、対人援助などを推進するスポーツマインドを持った福祉実践者、福祉マインドを持った健康運動指導者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

<https://www.hokusho->

[u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf)

（概要）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

- (1) 豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。
 - (2) 福祉と健康に関する専門知識を身に付けている。特に介護福祉学の学位を取得する者は介護福祉に関する専門知識、健康福祉学の学位を取得する者は健康福祉に関する専門知識を身に付けている。
 - (3) 社会福祉士、介護福祉士、健康運動指導者等を目指す学生は、各養成課程で求められる知識と技能を身に付けている。
 - (4) 少子高齢社会を見据え、介護予防や認知症予防の重要性を理解している。
- 【思考・判断】
- (5) 現代社会が抱える課題に対し、福祉と健康の両学問領域で学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。
- 【関心・意欲・態度】
- (6) 福祉課題について関心を持ち、数十年先を見据えた長期的な視野で取り組む意欲がある。
 - (7) 多様な価値観を持つ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と連携して活動することができる。
- 【技能・表現】
- (8) 円滑なコミュニケーション力と福祉と健康に関する専門技術を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

[https://www.hokusho-](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf)

[u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf)

（概要）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

- （1）豊かな人間性と社会人としての幅広い教養については、全学教育の教養科目、キャリア科目、発展科目を中心に4年間かけて学びを積み重ねていく。併せて初年次の基礎教育セミナーでも、学びに必要な能力を育成する。
- （2）福祉と健康に関する専門知識については、初年次に必修科目の「健康学」「健康福祉学概論」を配置し、最低限の知識を身に付ける。さらに学生が自ら希望する専門分野を中心に学べるように教育課程を配置している。
- （3）社会福祉士、介護福祉士、健康運動指導者等多数の資格に必要な知識や実践力を段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成している。また健康＋福祉、社会福祉＋介護福祉、さらには介護予防や認知症予防を含めて、複数の専門を組み合わせることで学ぶことができるよう科目を配置している。

【教育方法】

- （1）学生が着実に知識を積み上げていけるように、基礎的な学修から専門的な学修へ段階的に学ぶカリキュラム構成となっている。
- （2）学生の主体的な学びを促進するために、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。
- （3）現場で活かせる実践力を高めるため、学外での実習を充実させている。
- （4）他者とのコミュニケーションや自分の考えを述べることを重視し、基礎教育セミナーやキャリアデザイン、専門演習など、少人数での授業を展開している。

【教育評価】

- （1）各授業科目において、ディプロマ・ポリシーで示した能力が醸成されているかどうかを見極める課題（レポート、試験）を行う。また、地域での福祉ボランティア活動等に積極的に参加しているかどうかを含めて評価する。
- （2）学期ごとの確認テストを行うなど、学びの習熟度を学生自ら確認できるようにする。
- （3）専門演習Ⅲや卒業研究、資格取得状況等から、4年間の学びの成果を総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内、学生募集要項）[https://www.hokusho-](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf)

[u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/files/2019_kenkouhukusi.pdf)

（概要）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- （1）高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- （2）健康分野及び福祉分野の勉学意欲が高く、その専門家として活躍することを希望している。
- （3）他者とのコミュニケーションを積極的に図る。

学部等名 教育文化学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf
（概要） 教育学、芸術学、心理学のそれぞれの専門領域の特性を生かしつつ横断統合した学部であることから、当学部での多様な学びをとおして、幼児教育・学校教育から生涯学習にいたる幅広い世代の学びへの支援の観点を踏まえつつ、社会と関わり、時代のニーズに応え得る人材を養成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html
（概要） 教育文化学部（以下、「本学部」という）は、教育学、芸術学、心理学のそれぞれの専門領域の特質を活かしつつ横断統合した学部です。本学部での多様な学びを通して、幼児教育・学校教育から生涯学習にいたる幅広い世代の学びへの支援の観点を踏まえつつ、社会と関わり、時代のニーズに応え得る能力を身に付け、各学科での所定の単位を修得した以下の学生に、「学士（教育学）」「学士（芸術学）」「学士（心理カウンセリング学）」の学位を授与します。 (1) 専門的な知識を総合的な実践力へとつなげ、教育現場や関係諸機関・企業、そして広く地域社会において、教育文化の継承・発展に寄与する専門職業人としての力を備えている。 (2) 豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、幼児や児童・生徒の生活や学び活動を支援できる能力を備えている。 (3) 幅広い芸術文化の基礎理解と確かな専門技術を獲得し、多様な職種において芸術性を活かし、社会貢献できる能力を備えている。 (4) 心理学及び精神保健福祉学の専門知識をもち、人間援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、対人支援ができる能力を備えている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html
（概要） 本学部では、教育学、芸術学、心理学それぞれの学科の教育課程の円滑な運用を通して、学科専門科目、学部共通科目や発展科目など、さまざまな関連分野も含めた総合的・学際的な学びの場を提供します。本学部の教育課程では、柔軟な思考と豊かな感性そして広い教養を備えた質の高い実践的な職業人や教員が具備すべき能力を養います。さらに全学共通の基礎教育科目や全学年を貫き取り組む就業力養成科目を通して、社会人基礎力や課題解決能力の醸成など現代社会が求める能力の修得を目指します。 カリキュラムの基本的な構成は次の4群です。 (1) 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を養成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目） (2) 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目） (3) 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群（学部共通科目） (4) 各自の選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html
（概要） 本学部では、未来を担うこどもたちの教育に関わり、地域社会のさまざまな文化・芸術活動の発展に貢献し、人間理解と対人援助に力を注ぐ実践能力を身に付けたいと考える以下の人材を求めます。 (1) 高等学校の教育課程を修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。

- (2) 教育学、芸術学、心理学に強い関心があり、自ら課題を見つけ能動的に学修して専門性を身に付けようとする意欲がある。
- (3) 幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、中学校・高等学校教諭（音楽・美術）、保育士、学芸員、インテリアプランナー、建築士、認定心理士、福祉心理士、精神保健福祉士、公認心理師、社会教育主事などの専門的職業人を目指している。
- (4) 幼児・児童・生徒の視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、教育現場で活躍したいという意欲がある。
- (5) 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの芸術分野に興味があり、芸術を通して成長し、創造性を活かして社会で活躍したいという意欲がある。
- (6) 自分自身の理解、自分を取り巻く他者の理解、人と人とのかかわり合いの理解について深め、心理学と精神保健福祉学の専門知識を人々の人生をより豊かにするために活かしたいという意欲がある。

学部等名 教育文化学部教育学科

教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf

（概要）

こどもの視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、多様な学習活動をつくりだすことのできる教員を養成する。生涯発達における幼児・児童・生徒期の意義役割を理解し、学習支援とさらには心豊かな情操教育を支援する人材を育成する。こどもの心身の健康課題の専門的知識と指導力をもち、さらに特別な教育支援を必要とするこどもに情熱をもって関わることのできる教員の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

[https://www.hokusho-](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/files/2019_koyiku.pdf)

[u.ac.jp/school/educationalcultural/education/files/2019_koyiku.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/files/2019_koyiku.pdf)

（概要）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

【知識・理解】

- (1) 文化、歴史、教育、地理、生活、自然環境等について幅広い知識を身に付けている。
- (2) 現代社会の諸問題の存在について、広く理解、教育者として社会に参画できる力を身に付けている。
- (3) 教育学の体系的知識を身に付け、教育上の諸問題を踏まえつつ、幼児・児童・生徒理解を深めることができる。

【思考・判断】

- (4) 学修成果を状況に応じて実践的に活用することができる。
- (5) 現代社会が抱える課題に対し、学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。
- (6) 社会や教育上の諸問題を発見・理解し、解決のための方策を見いだすことができる。

【関心・意欲・態度】

- (7) 研究と修養を継続的に行う意思を有し、自律的かつ主体的に取り組むことができる。
- (8) 地域社会の動向や教育事情をよく理解し、教育者として幼児・児童・生徒はもとより地域社会に貢献する高い志を持つことができる。
- (9) 高い倫理観と正義感を持つことができる。

【技能・表現】

- (10) 読解、要約、まとめ、発表などの基本的なスタディ・スキルを身に付けている。

(11) 教員等に求められるコミュニケーション力や表現力を身に付けている。また、今日的な情報処理に関するリテラシーを有し、情報の明確な受発信ができる。 (12) 多様な価値観を理解して、適切な行動をとることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/files/2019_koyiku.pdf
（概要） 教育学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。 【教育内容】 (1) 4コースあり、それぞれの目的にあった科目を設定している。大学での学び方を身に付ける基礎教育セミナーを必修科目として1年次に位置付けるとともに、4年間の学修の基礎になる科目を1・2年次に履修できるようにする。また、幅広い視野と知識を身に付けるために、教養科目や他学科の専門的な科目を、全学共通科目や発展科目に位置付け履修できるようにする。 (2) 社会人としての必要な基礎力を育成することを目的とし、全学的にキャリア教育に関して「キャリアデザイン」を1年次から3年次にわたるまで必修科目として位置付ける。学修の足跡をキャリアノートに記録し、指導担当教員と共有することで、学生のキャリア発達に関わる成長の確認をする。 (3) 教員養成を主な目的とする学科であることから、教職免許を取得するための「教科に関する科目」、「教職に関する科目」を中心的な専門科目として位置付ける。概論や各論の履修後に、指導法の履修や実習、さらには専門分野の研究を行うことで、系統的な学びを展開する。また、小学校・幼稚園の教育実習・養護実習を3年次に、看護学臨床実習を2年次に、保育実習を2・3年次に、中高音楽の教育実習・特別支援教育実習を4年次に設定し、より実践的な力を身に付けることができるようにする。 (4) 各コースとも、4年次に卒業研究を設定し、大学における専門的な学びを総括する。 【教育方法】 (1) 専門性を高めるために、理論の指導を確実にしたうえで、演習的な講義を展開している。 (2) 個々の授業では、理論に基づく実践力を付けるために、様々な形態のアクティブ・ラーニングを導入している。 (3) 各コースの特性を重んじて、文献、映像、音声、演奏、実物提示などの教材を吟味し、活用している。教育のICT化にも対応し、科目によってはタブレットや電子黒板などを使用する。 (4) 各コースの特性に応じて、学外での学習活動を充実し、学会や研究会への参加・発表などを学生に促している。例えば、初等教育コースでは、教育に関わる各種ボランティア活動への参加を促すことで、学生の児童理解を深め、指導技術の向上を図っている。音楽コース、幼児教育コースは、関連学校・園、又は地域の催し物に参加し、社会貢献することを推奨し専門性の向上を図っている。養護教諭コースでは、2年次での看護学臨床実習に向け、初年度から理論学習や実習準備を行う。また、積極的に学会への参加を促し、専門性の向上を図っている。 (5) 教科に関する指導法等の科目では、模擬授業等を積極的に取り入れ、実践力の向上を図っている。 (6) 学生達の学びの状況を適切に把握し、よりよい学修状況へと導くために前期後期ごとにGT、ゼミごとに個人面談を行っている。 【教育評価】 (1) 各科目で設定した評価方法に基づいて実施する。講義中の発言内容やレポートの状況、試験の成績等を総合的に判断して成績評価を行う。

(2) ポータルサイトを活用し、学びの習熟度を学生自ら確認できるようにする。 (3) 個別に相談したり、学科に所属する教員間で情報を共有したりして、客観的な評価と指導の充実を行う。 (4) 卒業の判定にあたっては、専門演習や卒業研究から、4年間の学びの成果を総合的に評価する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内、学生募集要項） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/files/2019_koyiku.pdf
（概要） 本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。 (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。 (2) 教育や保育に関する社会的な諸課題について、自分の持っている知識や情報により論理的に思考し、それを説明したり表現したりできる。 (3) 「初等教育」、「幼児教育」、「養護教諭」、「音楽」の4コースから、主体的に所属先を選択・希望するために、専門性の高い職業に就く目的意識を有し、そのためにどのような学びを展開していきたいのか、具体的に考えることができる。 (4) 高等学校等で課外活動やボランティアなど、多様な活動経験を有している。

学部等名 教育文化学部芸術学科
教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf
（概要） 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの各芸術領域を学び、理論と実践に係る研究を深め創造性を培い、共同制作や発表活動を活発におこなうことによって、あらゆる職種において芸術性を活かし、自らの人生を切り開き、社会貢献できる人材を養成する。また、美術教育並びに生涯学習の観点から、中学校、高等学校、美術館、博物館、劇場、福祉施設、NPO等で芸術の専門知識とコミュニケーション能力を活かし、芸術文化の持つ豊かな力や技法を教えられる指導者や学習支援者を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/files/2019_geijutu.pdf
（概要） 本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。 【知識・理解】 (1) 豊かな人間性と芸術分野における幅広い知識を身に付けている。 (2) 選択した分野の専門的知識を身に付けている。 【技能・表現】 (3) 芸術の多様な技能と豊かな表現能力を身に付けている。 (4) 豊かな表現能力・活用能力を身に付けている。 【思考・判断】 (5) 芸術の幅広い視点に基づく問題分析力・考察力・対応力を身に付けている。 (6) 問題解決に関する提案力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】 (7) 芸術活動を通じた自己探求力を身に付けている。 (8) 社会における自分の役割を自覚する力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/files/2019_geijutu.pdf
(概要) 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。 【教育内容】 (1) 芸術教育を通して創造性を培うために、美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の5分野に関する専門科目を配置する。 (2) 芸術理解、表現技術、情報技術、アート教育・文化、平面表現、立体表現、空間・身体表現、発想・企画・プレゼンテーション、総合・統合の芸術の各領域で構成されており、理論と実践に係る研究を深め、技能を向上させるための科目を設定する。 (3) 創作活動や発表を活発に行うことによって、専門分野をさらに深化させ、社会人としての教養を修得することができる編成とする。 (4) 各学生が自ら選択する分野で、専門的学習が行えるよう分野別の教育課程を整備し、さらに、複数の分野の専門科目を履修できる枠組みを設定する。 【教育方法】 (1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習科目において、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を採用する。 (2) 3年次に専門演習、4年次に卒業研究など、少人数制のゼミを必修化し、教員が各学生の身近な存在となり、目の行き届いた教育を実施する。 【教育評価】 (1) 提出課題、作品などを評価対象として、教員による評価を毎学期実施する。 (2) 4年間の総括的な学修成果については、外部での発表会などを通して、担当教員による卒業研究の評価によってこれを行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内、学生募集要項） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/files/2019_geijutu.pdf
(概要) 本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。 (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。 (2) 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの芸術分野に興味があり、芸術の学びを通して成長したいという意志を有している。 (3) 自分のことだけでなく、広く社会を見渡し、自分の創造力や構想力によって他者に寄与したいという意志を有している。 (4) 様々な事を思案するだけに留まらず、芸術分野における創作表現の実践や、既成概念にとらわれない新たな挑戦を行いたいという意志を有している。 (5) 創作制作を通じ、他者と互いに学び合いたいという意志を有している。
学部等名 教育文化学部心理カウンセリング学科
教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_01_01.pdf
(概要) 心理学、社会福祉学、教育学を統合した学際的観点から、一人ひとりの生活を包括的に支える実践力を養成する。こころの科学としての心理学の基礎から応用に至る理論と技法、および精神保健福祉学の専門知識をもち、心理的支援に限らず、福祉、教育・保育を含む、より広い領域における人間援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身につけ、現代社会に貢献する人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

[https://www.hokusho-](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf)

[u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf)

(概要)

心理カウンセリング学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

【知識・理解】

- (1) 豊かな人間性と社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- (2) 心理学及び精神保健福祉学における専門的知識を身に付けている。
- (3) 精神保健福祉士を目指す学生は養成課程にて求められる知識を身に付けている。

【思考・判断】

- (4) 自ら考え、設定した課題について、心理学及び精神保健福祉学の知識を活用し、現代社会が抱える諸問題への解決方法について考察できる。

【関心・意欲・態度】

- (5) 心のケアや生活支援に関心を持ち、その実践に取り組む意欲を持っている。
- (6) 自分自身の心のありかたを分析し、対人援助に役立てる意欲を持っている。

【技能・表現】

- (7) 対人援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、地域住民が心豊かに暮らすことに貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

[https://www.hokusho-](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf)

[u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf)

(概要)

心理カウンセリング学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

【教育内容】

- (1) 心理学・精神保健福祉学の修得に向けた準備のため、基礎教育科目としては大学での学び方を身に付ける基礎教育セミナー、語学、情報機器操作、現代生活と諸関連領域を含めた教養科目を学んでいく。加えて発展科目としては他学科の専門的な科目を履修することにより、人を取り巻く様々な環境について理解を深め、心の支援の実践に活かすための学びを深めていく。
- (2) 就業力養成科目においては、専門的知識を援用した自身のキャリア形成のための自己探究やコミュニケーションのスキルを学んでいく。
- (3) 専門科目においては、心理学に関するものとして、心理学概論をベースに、基礎心理学、臨床心理学に関わる幅広い分野における講義・演習科目により、心についての理解を深めるとともに、「心の支援」に携わるためのカウンセリングの知識とスキルを修得していく。精神保健福祉学に関するものとしては、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムを通して、「生活と人との関係への支援」のための基礎的知識と実践に結び付けるための体験的知識を修得していく。
- (4) 3年次以降では、専門演習において本学科で修得した知識と能力を応用し、研究的思考により発展させ、卒業研究において専門的な学びの総括を行う。

【教育方法】

- (1) 1年次よりゼミ担任制をとり、学生の学びの状況を適切に把握し、よりよい学修状況へと導くための指導を行っている。
- (2) 主体的な学びを促進するため、様々な形態のアクティブ・ラーニングを導入している。
- (3) 専門性を高めるために、基礎的理論の理解に基づいた上で心の探究に関する研究方法や、心の支援を実践するための方法について理解を深めるための演習的な講義を展開している。
- (4) 学内外における実習により、心の支援に携わるための実践力を身に付ける。

(5) 専門演習・卒業研究においては各自のテーマに基づき主体的に文献検索を行い、得られた成果のプレゼンテーションとディスカッションを経て研究としてまとめていく。

【教育評価】

- (1) 各科目において設定された到達目標の達成については、設定された方法に基づき、講義中の発言内容やレポートの状況、試験の成績等を総合的に判断し評価を行う。
- (2) 最終年次には、大学での学びを総括する取り組みである卒業研究において研究成果を提出物ならびに口頭発表によって示す。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内、学生募集要項）

<https://www.hokusho->

[u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf](https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psychology/files/2019_shinri.pdf)

（概要）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
- (3) 心理学や精神保健福祉学に関する社会的な諸問題について、自ら得た知識・情報に基づいて論理的に思考し、それを説明することができる。
- (4) 入学後の修学に必要とされる、コミュニケーション力、及び、主体性をもって学ぶ姿勢を持っている。
- (5) 自分自身の心、自分を取り巻く他者の心、そして人と人とのかかわり合いについて理解を深める意欲を持っている。
- (6) 心理学・精神保健福祉学の専門知識に基づき、人間理解と対人援助に力を注ぐための実践能力を身に付ける意欲を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/infopublic_senninkyoin.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2 人	－					2 人
生涯スポーツ学部	－	22 人	9 人	10 人	人	人	41 人
教育文化学部	－	27 人	13 人	7 人	人	人	47 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		274 人					275 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページ https://www.acoffice.jp/hsuhp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD ネットワーク“つばさ”、北海道 FD・SD 協議会に加盟							
FD/SD 研修会を年数回実施、授業改善アンケートを年 2 回実施、学生 FD 活動の支援							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生涯スポーツ学部	220 人	253 人	115%	910 人	997 人	109.56%	30 人	3 人
教育文化学部	220 人	244 人	110.9%	920 人	951 人	103.36%	40 人	9 人
生涯学習システム学部	－人	－人	－%	－人	1 人	－%	－人	－人
合計	440 人	497 人	112.95%	1,830 人	1,949 人	106.50%	70 人	12 人
（備考）編入学定員および編入学者は、学年進行分を含んだ人数。（3 年次編入学試験のみを実施） 収容定員は、生涯学習システム学部は平成 26 年度 募集停止学部								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生涯スポーツ学部	193 人 (100%)	9 人 (4.7%)	167 人 (86.5%)	17 人 (8.8%)
教育文化学部	200 人 (100%)	15 人 (7.5%)	155 人 (77.5%)	30 人 (15.0%)
生涯学習システム学部	1 人 (100%)	0 人 (%)	1 人 (100%)	0 人 (%)
合計	394 人 (100%)	24 人 (6.1%)	323 人 (82.0%)	47 人 (12.0%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (公財)北海道 YMCS (札幌 YMCA)・SD エンターテインメント(株)・北空知信用金庫・苫小牧信用金庫・(株)北海道三和・(株)北海道クラウン・北一ミート(株)・(株)アインファーマシーズ・(株)ツルハ・(株)ダイイチ・美和電気工業(株)・(株)スポーツピア・日産プリンス札幌販売(株)・(株)小山商会・トヨタカローラ札幌(株)・東日本フード(株)・パナソニックグループ石垣電材(株)・(株)日引ヒーティング・ようてい農業協同組合・札幌市農業協同組合・(株)ヤマチマネジメント・(株)一条工務店・(株)ロゴスホームズ・(株)明和地所・ミサワホーム北海道(株)・北海道通運(株)・東日本旅客鉄道(株)・(株)ベネッセコーポレーション・(公財)札幌市青少年女性活動協会・(株)アドレ・(医)製鉄記念室蘭病院・(公社)北海道勤医協・(医)千寿会三愛病院・(社福)北海道社会福祉事業団・(社福)はるにれの里・稚内市役所・日高西部消防組合・浜頓別町役場・様似町役場・(学)帯広葵学園 (主な企業のみ掲載)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
生涯スポーツ 学部	227 人 (100%)	180 人 (79.30%)	17 人 (7.49%)	26 人 (11.45%)	4 人 (1.76%)
教育文化学部	224 人 (100%)	186 人 (83.04%)	14 人 (6.25%)	22 人 (9.82%)	2 人 (0.89%)
合計	451 人 (100%)	366 人 (81.15%)	31 人 (6.87%)	48 人 (10.64%)	6 人 (1.33%)
(備考) 生涯スポーツ学部の留年者数には、休学者数(1名)および在学期間未了者数(2名)を含む。 教育文化学部の留年者数には、休学者数(1名)および在学期間未了者数(4名)を含む。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 大学の全ての科目について、詳細なシラバス(講義要綱)を作成している。作成に当たっては、学習支援委員会において、シラバス作成における記載事項を定め、シラバス記載要領とともに示し、記載方法の統一を図っている。授業担当者は、示された記載要領に沿ってシラバスを作成している。 シラバスの記載事項は、「科目名」「授業形態」「単位数」「教員名」「授業の目的(ねらいと到達目標)」「授業の計画(テーマ、計画内容、授業時間外の学修内容、具体的な学習形態)」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法(配分、補足)」「課題に関するフィードバックの方法」「実務経験と授業の関連(経験内容、科目との関連)」「質問への対応」「資格」「その他(履修に際しての留意事項等)」としている。 (様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】該当部分再掲)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 単位認定については、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。 評価方法については、講義等における多様な評価方法をとることを推進しており、シラバスに、その評価方法を記載している。評価方法は、筆記試験、実技試験、課題評価、作品評価、受講態度等共通項目をたて、評価の配分を示し、補足欄にその詳細を記載している。なお、評価については、S(90点以上)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)の5段階によって評価し、SからCまでを合格とし単位が与えられる。 なお、段階を設けた成績評価の意味や数値、計算等については学生便覧に記載し、学生ポータル等も活用し学生には周知している。 (様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】該当部分再掲)				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	124単位	⑦・無	単位
	健康福祉学科	124単位	⑦・無	単位
教育文化学部	教育学科	124単位	⑦・無	単位
	芸術学科	124単位	⑦・無	単位
	心理カウンセリング学科	124単位	⑦・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.hokusho-u.ac.jp/studentlife/campusguide/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生涯スポーツ	スポーツ教育	850,000円	310,000円	346,000円	施設設備費・野外教育実習他
	健康福祉			420,000円	施設設備費・介護基礎演習他
教育文化	教育			410,000円	施設設備費・看護学臨床実習他
	芸術			330,000円	施設設備費・博物館実習他
	心理カウンセリング			335,000円	施設設備費・精神保健福祉援助実習他

生涯学習	芸術メディア	850,000 円		250,000 円	施設設備費 (生涯学習システム学部は平成 26 年度学生募集停止。)
	学習コーチング				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組	
教育支援総合センターに「何でも相談」窓口を設け、各部署と連携を図りながら学修・生活全般にわたる疑問や質問に対応できる体制を整えている。また、学修支援では、教員のオフィスアワーを利用して個別の指導を行い、支援に加えて授業評価を実施することで学生のニーズを把握し理解するように努めている。新型コロナウイルス関連としては、国や北海道の要請に対応し遠隔授業の環境整備を行なった。また、本学の感染対策の取り組み状況を学生ポータルサイトや SNS を通して周知し、万が一感染者が出た場合は、保健センターや学部教員と連携し学内での情報共有を行い感染の拡大防止に努めている。今まで対面で行っていた提出物や申請等の窓口対応も、郵送や SNS でのやりとりで切り替え、接触機会を減らしている。	
b. 進路選択に係る支援に関する取組	
(1) キャリア教育科目による就業力養成の確立 全学年に体系立てたキャリア教育科目を開講し、実践的なグループワークなどを中心としながら展開している。また、インターンシップでは職業体験を通して就業力を高めている。 (2) 個人面談の実施 新型コロナウイルスの影響により採用プロセスの WEB 化が進むなど、就職を取り巻く環境が変化している中、学生の状況を把握し支援するために個人面談を実施している。個人面談をきっかけにキャリア支援センターを積極的に利用するようになるため、その後、進路が決定するまで支援をしている。 (3) 学内企業研究会の開催 全学生を対象に毎年 2 月に学内企業研究会を開催している。令和 3 年 2 月は、新型コロナウイルスの影響により初めて WEB 開催とした。延べ 294 名の学生が参加した。 (4) 学内説明会の開催 5～10 月を中心に企業の採用担当者による説明会を随時単独で実施している。新型コロナウイルスの影響により対面と WEB を併用するなど、状況に応じた形態で開催している。 (5) 就職ガイダンスの実施 全学生を対象として 4～5 月に実施。年度初めに学年ごとに必要なことを伝えている。 (6) 就職活動対策セミナー マナー講習や就職情報サイトの活用方法、面接や筆記試験対策講座などのセミナーを WEB ツールも使用しながら実施している。 (7) ジェネリックスキル測定・育成ツール「PROG」の実施 1 年・3 年に PROG を実施。1 年と 3 年の結果を比較し、どの力が伸びているかを可視化できる。また PROG で測定したジェネリックスキルの 2 側面「リテラシー」および「コンピテンシー」の経年変化を自己分析に繋げ、キャリア形成に役立てている。 (8) 魅力発見サークル「のっけいす」の運営 就活応援ブログを通して、周囲にあるたくさんの魅力を紹介、発見するサークルを運営している。2 月開催の学内企業研究会の運営サポートや人事担当者へのインタビュー企画を立案・実施するなど、活動を通して就業力を養成している。	

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

本学保健センターは、保健センター、学生相談室、障がい学生支援室の3部門で構成されている。保健室機能としては学生が健康で充実した学生生活を送ることができるよう、保健師や看護師が疾病予防や健康の保持・増進や急病への対応をしている。学生相談室では、健康・学業・進路などの学生生活に関する悩みに臨床心理士が常駐し相談に応じている。また、障がい学生支援室では、障がいがある学生や、学習に配慮が必要な学生のニーズに応じて、情報保障のための支援資源の提供や、教員や各部署と協働した支援体制を組織し、卒業後を見据えた支援を提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ

<https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/infopublic.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F101310100285
学校名	北翔大学
設置者名	学校法人 北翔大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		238人	228人	245人
内 訳	第Ⅰ区分	140人	134人	
	第Ⅱ区分	54人	59人	
	第Ⅲ区分	44人	35人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				245人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下）	0人		
GPA等が下位4分の1	24人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	38人		
計	62人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

